

平成17年9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館

(青梅市駒木町 1-684

0428-23-6859)

谷津七軒（やづしちけん）

谷津七軒とは、東青梅6丁目在住で昭和3年生まれの子山崎喜好さんが、慶応年間（1865～1868）に生まれた近所の人（男）や、両親（特に明治27年生まれの母親）から聞いた話の中に登場する、7軒の家（山崎姓が3軒、伊藤姓が2軒、吉澤姓が2軒）を言うそうです。山崎喜好さんの家もそのなかの一軒でした。

このような伝承はたいへん貴重ですが、時が経つといつのまにか消えてしまうことが多いので、お聞きしたことをここに記録いたします。

谷津七軒

その7軒は、勝沼城跡（師岡城跡）として東京都の史跡になっている「城山」と呼ばれる地域にあり、東青梅6丁目にある光明寺や師岡神社の北側で、谷津地形になっている所にありました。7軒がいつ頃そこに住み始めたかは不明ですが、最後の1軒は明治初年頃まで住んでいたそうです。現在、7軒は「表（南の平地）」に移って東青梅6丁目や霞川の近く、六万薬師堂の近くなどに分散して居住しています。



谷津七軒とその周辺図〔『青梅市史（上巻）』より〕

井戸

最後まで住んでいた家の敷地であった所に、当時使っていた井戸が現在もあります。谷津七軒の共同井戸であったと推察されます。

（裏面に続く）

建物（物置）

伝承者の山崎喜好家には、谷津にあった家を解体してその材を現在地に運び、建て直したという家屋が、今も物置として残っています。田の字型の農家建築で、材にはホゾ穴が残り、柱は手斧削り、屋根は狩野川台風（1958年）で落ちるまでは藁葺きであったといえます。

古志喜稲荷（こしきいなり）

ある家では、谷津の西側の「古志喜」という名の山を持っていました。山上に稲荷がありましたが、山を売ったため下の谷津に稲荷を下ろしたところ、いろいろなことが次々と起きました。そこで占ってもらったと、稲荷を移したのが原因だということで元あったと思われるところに祀り直しました。昭和14～15年頃のことです。今も稲荷はそこにあり、「古志喜稲荷」と呼ばれています。

谷津七軒にまつわる話は以上ですが、周辺の伝承を以下に記します。

「みそる橋」

昔、「城山」の南側は一面の湿地でした。「みそる」という名の女性が、そこを流れている小川にかかる土橋で洗濯をしていました。その時、勝沼城への道を尋ねられたので、間道（抜け道）を教えしました。尋ねたのは北条氏の兵士で、兵士達はこの間道を通して攻めたため、勝沼城は落城してしまいました。それ以降、土橋は「みそる橋」と呼ばれるようになったということです。

「根師岡」「根今井」

山崎喜好さんの現在地付近は、「根師岡」という通称で呼ばれていますが、同様に今井の薬王寺の南側あたりも「根今井」と言われています。

「原街道」

山崎さんが子供の頃、現在地の北側の山裾に細い道が通っていて、「原街道」と呼ばれていました。小曾木や黒沢の人達が、河辺原（かべっばら）にある畑へ耕作に通う道でした。山裾を出ると、現在の第四小学校の体育館東側を通り、元の教員住宅のそばの坂を上って原に出ました。以前この道を掘ったとき、馬の頭骨が見つかったそうです。

「どんど山」

妙光院の東側の山は、子供の頃足で踏むとどんどんという音がしていたので、「どんど山」と呼ばれていました。

愛宕神社

東京都水道局城山配水所の南西側の山は、元は上師岡村の共有林でした。ここには今も、高さ75cm、幅35cm、奥行30cmほどの小祠が祀られています。古い小祠には「(正面)愛宕山大権現、(右面)文化十三(1816)丙子年十月 日再建、(左面)上師岡村中」と刻まれています。

(文責 三好ゆき江)